

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年8月14日
【四半期会計期間】	第45期第1四半期(自2019年4月1日至2019年6月30日)
【会社名】	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ
【英訳名】	UNIMAT Retirement Community CO.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中 川 清 彦
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山二丁目7番13号 プラセオ青山ビル
【電話番号】	03(5413)8228 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 寺 坂 淳
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山二丁目7番13号 プラセオ青山ビル
【電話番号】	03(5413)8228 (代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 管理本部長 寺 坂 淳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第 1 四半期 連結累計期間	第45期 第 1 四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 6 月30日	自 2019年 4 月 1 日 至 2019年 6 月30日	自 2018年 4 月 1 日 至 2019年 3 月31日
売上高 (千円)	13,535,171	13,971,156	54,822,419
経常利益 (千円)	735,969	731,595	2,969,059
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	570,823	436,660	2,728,996
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	510,314	434,766	2,603,022
純資産額 (千円)	14,439,454	16,776,927	16,531,448
総資産額 (千円)	52,950,442	55,260,286	54,778,883
1 株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	66.39	50.79	317.39
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	27.3	30.4	30.2

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第 1 四半期連結累計期間における、当社グループ（当社及び連結子会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

介護業界は高齢者の人口増加に伴い、要介護認定者数も増加の一途をたどる一方で、約800万人ともされる団塊の世代が75歳以上となる2025年においては、介護人材は37.7万人不足すると推計されています。政府は、深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組みを行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有する外国人材を受け入れる制度として、2019年4月に新たに創設した在留資格「特定技能」を施行しました。また、厚生労働省は、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる仕組み「地域包括ケアシステム」の構築を推進しております。このような経営環境の下、当社は持続的な成長を続けていくため、当社の代表的なビジネスモデルである複合型介護施設の運営力と収益力の更なる強化を図るとともに、既存施設との連携をも視野に、自宅に居ながらにして施設並みのサポートを受けることができる、定期巡回・随時対応型訪問介護看護「そよ風定期巡回」の新規開設を進めております。また、深刻化する人手不足への対応や介護人材の確保・育成のため、当社100%子会社の「株式会社ユニマット スタッフカンパニー」による医療介護系有料職業紹介事業の活用や、ICT化の推進などによる業務の効率化、入社後の社員に対する教育研修体制の強化によるフォローの充実化を図るなど、働きやすい職場環境作りにも継続的に取組むとともに、外国人材の受け入れ態勢の整備にも取組んでおります。更に新たな事業展開として、2019年4月に食事宅配サービス「食のそよ風」、6月に介護保険デイサービスと保険外リハビリサービス、就労支援を組み合わせた同時一体型施設「ウェルビスタ ケアスタジオ」の展開を開始しました。今後も健康寿命が延びていることを背景としたアクティブシニア市場へ事業領域を拡大するための新たな事業の推進を図ってまいります。

当第1四半期連結累計期間においては、主力事業である介護事業において、稼働率及び入居率が向上したこと、また、飲食事業においては、レストラン事業の業容の拡大を図るとともに、すべての事業の経費管理に取組んだことにより、売上高は139億7千1百万円(前年同期比4億3千5百万円増)、営業利益は8億6千6百万円(前年同期比9百万円増)、経常利益は7億3千1百万円(前年同期比4百万円減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億3千6百万円(前年同期比1億3千4百万円減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[介護事業]

介護事業におきましては、当第1四半期連結累計期間において、介護サービス拠点は296拠点となり、提供するサービス事業所は613事業所(2019年6月末現在)となりました。介護事業の売上高は、主要サービスすべてにおいて稼働率及び入居率が向上したことによって売上が堅調に推移し、121億5千5百万円(前年同期比4億7千8百万円増)となりました。一方で、新規施設の開設や新規事業の開始に伴う人件費の増加、および既存施設における修繕費の増加、また、新規事業等の営業活動の強化による広告宣伝費の増加等により、営業利益は13億2千万円(前年同期比3千3百万円増)と微増となりました。

[飲食事業]

飲食事業におきましては、連結子会社の株式会社ユニマットキャラバンにおいて、レストラン事業及びコーヒー豆加工販売・カフェ運営事業ならびに洋菓子の製造・販売事業をおこなっております。当第1四半期連結累計期間においては、レストラン事業において2019年4月に新業態の「酒舗 らくだ」を新規開設し業容の拡大を図りました。しかしながらコーヒー豆加工販売事業の市場競争の激化により売上が伸び悩み、飲食事業の売上高は、内部売上高を含めて17億9千8百万円(前年同期比2千8百万円減)となりました。一方で、すべての事業において販売戦略分析に基づいた購買・仕入の選別と集中によって原価低減を図るとともに、人件費を中心とした経費管理にも徹底的に取組んだ結果、営業利益は6百万円(前年同期比2百万円減)となりました。

〔その他の事業〕

不動産賃貸事業及び連結子会社による有料職業紹介事業などその他の事業の売上高は、内部売上高を含めて9千9百万円(前年同期比4千5百万円増)、営業利益は1千1百万円(前年同期比2百万円増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は552億6千万円となり、前連結会計年度末と比べ4億8千1百万円の増加となりました。

負債は、384億8千3百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億3千5百万円の増加となりました。

純資産は、167億7千6百万円となり、前連結会計年度末と比べ2億4千5百万円の増加となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,598,912	8,598,912	東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数 100株
計	8,598,912	8,598,912	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	—	8,598,912	—	100,000	—	—

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,585,500	85,855	—
単元未満株式	普通株式 12,712	—	—
発行済株式総数	8,598,912	—	—
総株主の議決権	—	85,855	—

（注）単元未満株式には当社保有の自己株式が91株含まれております。

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュ ニティ	東京都港区北青山二丁目 7番13号 プラセオ青山ビル	700	—	700	0.00
計	—	700	—	700	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、大光監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,130,105	8,616,672
受取手形及び売掛金	7,158,442	7,422,647
商品及び製品	290,210	300,969
原材料及び貯蔵品	145,845	143,433
その他	2,021,915	2,265,048
貸倒引当金	53,977	53,620
流動資産合計	19,692,542	18,695,150
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2 12,777,827	2 15,638,216
土地	5,865,088	5,873,367
リース資産（純額）	6,369,898	6,296,934
その他（純額）	2 2,911,907	2 1,592,072
有形固定資産合計	27,924,721	29,400,591
無形固定資産		
のれん	1,632,194	1,657,781
その他	2 534,124	2 498,691
無形固定資産合計	2,166,319	2,156,473
投資その他の資産		
差入保証金	710,179	686,394
敷金	2,289,120	2,311,345
その他	2,119,008	2,133,943
貸倒引当金	123,007	123,613
投資その他の資産合計	4,995,300	5,008,070
固定資産合計	35,086,340	36,565,136
資産合計	54,778,883	55,260,286

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,517,519	1,507,497
短期借入金	3 450,000	3 450,000
1年内償還予定の社債	800,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	4,582,356	3,527,137
リース債務	197,148	199,479
未払法人税等	251,394	63,411
賞与引当金	568,039	277,819
その他	3,925,761	3,791,491
流動負債合計	12,292,219	10,116,836
固定負債		
社債	300,000	800,000
長期借入金	13,392,489	3 15,335,729
リース債務	7,554,200	7,503,446
長期預り保証金	1,912,098	1,856,793
役員退職慰労引当金	39,716	40,343
偶発損失引当金	1 20,442	1 20,442
退職給付に係る負債	1,549,941	1,573,494
資産除去債務	647,865	722,300
その他	538,460	513,972
固定負債合計	25,955,214	28,366,522
負債合計	38,247,434	38,483,359
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	8,122,974	8,122,974
利益剰余金	8,301,234	8,548,737
自己株式	1,240	1,370
株主資本合計	16,522,968	16,770,341
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,510	44,625
繰延ヘッジ損益	5,145	5,025
退職給付に係る調整累計額	37,884	33,013
その他の包括利益累計額合計	8,480	6,585
純資産合計	16,531,448	16,776,927
負債純資産合計	54,778,883	55,260,286

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	13,535,171	13,971,156
売上原価	10,774,066	10,991,895
売上総利益	2,761,105	2,979,260
販売費及び一般管理費	1,904,742	2,113,103
営業利益	856,362	866,157
営業外収益		
受取利息及び配当金	7,654	10,203
受取手数料	5,834	10,104
貸倒引当金戻入額	3,323	1,420
受取損害賠償金	14,592	-
受取保険金	6,831	23,930
その他	15,716	20,726
営業外収益合計	53,952	66,384
営業外費用		
支払利息	144,177	138,944
その他	30,167	62,001
営業外費用合計	174,345	200,946
経常利益	735,969	731,595
特別利益		
補助金収入	6,774	19,144
特別利益合計	6,774	19,144
特別損失		
固定資産除却損	784	5,393
固定資産圧縮損	6,284	16,488
その他	-	3,276
特別損失合計	7,069	25,157
税金等調整前四半期純利益	735,673	725,581
法人税、住民税及び事業税	52,311	63,411
法人税等調整額	112,538	225,509
法人税等合計	164,850	288,920
四半期純利益	570,823	436,660
親会社株主に帰属する四半期純利益	570,823	436,660

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	570,823	436,660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67,601	6,885
繰延ヘッジ損益	469	120
退職給付に係る調整額	6,623	4,870
その他の包括利益合計	60,508	1,894
四半期包括利益	510,314	434,766
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	510,314	434,766
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の連結会社以外の法人の不動産賃貸借契約の未経過賃借料等に対して、次のとおり債務の保証をおこなっております。

前連結会計年度 (2019年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)	
医療法人弘正会(賃貸借保証債務)	607,200千円	医療法人弘正会(賃貸借保証債務)	569,250千円
医療法人弘英会(賃貸借保証債務)	502,320	医療法人弘英会(賃貸借保証債務)	470,925
その他 1件	442	その他 1件	442
偶発損失引当金	442	偶発損失引当金	442
計	1,109,520	計	1,040,175

2 圧縮記帳

取得価額から控除した国庫補助金等の受入に伴う圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
建物及び構築物(純額)	847,387千円	848,113千円
その他(純額)(有形固定資産)	22,558	25,316
その他(無形固定資産)	28,964	41,969
計	898,911	915,399

3 当座貸越契約及び貸出コミットメント契約

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達をおこなうため、取引銀行数行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
当座貸越限度額及び貸出コミットメントの総額	2,750,000千円	4,450,000千円
借入実行残高	450,000	1,450,000
差引額	2,300,000	3,000,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	347,600千円	387,146千円
のれんの償却額	22,675	26,065

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月15日 取締役会	普通株式	154,774	18.0	2018年3月31日	2018年6月11日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月15日 取締役会	普通株式	189,158	22.0	2019年3月31日	2019年6月10日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	介護事業	飲食事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	11,676,903	1,826,503	13,503,406	31,764	13,535,171	-	13,535,171
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	849	849	21,944	22,793	22,793	-
計	11,676,903	1,827,352	13,504,255	53,709	13,557,964	22,793	13,535,171
セグメント利益	1,286,453	9,130	1,295,584	8,349	1,303,933	447,570	856,362

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産分譲事業、不動産賃貸事業、有料職業紹介事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 447,570千円は、セグメント間取引消去等4,172千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 451,743千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	介護事業	飲食事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	12,155,241	1,778,896	13,934,138	37,017	13,971,156	-	13,971,156
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	20,022	20,022	62,384	82,407	82,407	-
計	12,155,241	1,798,918	13,954,160	99,402	14,053,563	82,407	13,971,156
セグメント利益	1,320,143	6,298	1,326,441	11,168	1,337,609	471,452	866,157

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業、有料職業紹介事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 471,452千円は、セグメント間取引消去等2,349千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 473,802千円であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益	66円39銭	50円79銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	570,823	436,660
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	570,823	436,660
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,598	8,598

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2019年5月15日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当をおこなうことを決議いたしました。

(イ) 配当金の総額 189,158千円

(ロ) 1株当たりの金額 22円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2019年6月10日

(注) 2019年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いをおこないます。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年 8月14日

株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ
取締役会 御中

大光監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 高 山 康 宏 印

業務執行社員 公認会計士 定 免 賢 一 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。